



国際医療リスクマネジメント学会
世界健康リスクマネジメントセンター

医療安全講習会 主催者の挨拶

臨床コーチング実習研修2014春季

臨床現場における人材育成の新技術

この度、医療安全のための臨床コーチングを目的とする3日間にわたる小グループ実習による社会人教育プログラムを開催する運びとなりました。

医療安全の向上のための社会人教育は、講演会による安全に関する知識と考え方の習得、並びに安全に関する技術の習得から構成されます。安全技術の習得は小グループによるヒューマンファクターの実習が行われています。このグループ学習で参加者はある特定課題について疑似体験し、それを通じてグループ内部で討論しあい、よりよい解決策の探索方法を習得します。

他方、事故には多発者が存在します。そのような方に対しては、何がしかの適切な教育指導も必要です。また、高度で複雑な医療技術を安全に実施できるようにする際、高度な教育指導も必要です。つまり、医療技術の安全性を体験学習させるには、適切なコーチングの知識と技術を有する人材も医療機関には不可欠です。

以上の理由から、医療安全のための臨床コーチングの知識と方法を開発する必要があり、日本において医療コーチング分野で最も先進的な活躍をしている出江紳一先生に、医療安全のための臨床コーチングの技術開発をお願いし、3年間が経ちました。この結果、今回の教育プログラムを実施することができるようになりました。

なお、本プログラムは医療安全教育以外にも、様々な臨床現場での人材教育にも幅広くご利用いただけます。ここで開発された新技術は、今、欧米諸国の医療安全関係者にも注目されています。

2013年11月

酒井 亮二

国際医療リスクマネジメント学会理事長
日本医療安全学会理事長

コーチングは、相手の主体的な目標達成を支援するコミュニケーションであり、企業におけるリーダーシップ開発や、医療面接などに応用されています。本セミナーは、国際コーチ連盟認定プロフェッショナル認定コーチの資格を有し、これまでコーチング介入に対する科学的検証を数多く行った実績のある講師が担当します。

本セミナーでは、コーチングの概要を理解し、基礎的・実践的・応用的なコーチングスキルを学び、コーチングの医療安全における効果の理解と、コーチングの意義に対する各参加者の体感をとおして、コーチングにさらに興味をもち実践できることを目的とします。

また、具体的に診療・教育・組織の場面での実践例を紹介し、参加者自身が様々な場面でコーチングを実践できることを目指します。

2013年11月

出江 紳一

東北大学大学院医工学研究科リハビリテーション医工学分野 教授
東北大学大学院医学系研究科肢体不自由学分野 教授
国際医療リスクマネジメント学会理事
日本医療安全学会理事

主催者一同

(C) 2013 WHRMC